

# 図書館だより

No. 29

## ●学術研究の拠点としての図書館

..... 研究機構長・外国語学部イスパニア語学科教授 幡谷 則子

## ●教えて! ソフィアンくん

～ 第12回 図書を探す・読む・借りる・返す～

## ●図書選定委員お薦めの本

..... 総合人間科学部 心理学科 准教授 齋藤 慈子

### 学術研究の拠点としての図書館



研究機構長・  
外国語学部イスパニア語学科教授  
幡谷 則子

OPAC (Online Public Access Catalog) とは図書館利用者に提供されるオンライン蔵書目録のことで、今では大半の公共図書館がこのインターネットによって外部からもアクセスできるWeb OPACシステムを導入している。ネット環境で生まれ育った学生諸君には、めずらしいことではないだろうが、OPACシステムが日本で導入され、普及し始めたのは1980年代半ばである。

上智大学の現在の中央図書館が竣工したのは1983年。現在の2号館の敷地にあった旧図書館は閉架式で、利用者は奥行の長いカードボックスに収納されている図書カードを分類コード別に検索し、閲覧したい図書を探し、カウンターに願い出るシステムであった。新図書館は開架式となり、登録カードによる入館管理という、当時は最先端のセキュリティシステムを導入した。まもなくすべての蔵書カタログがOPACシステムに移行され、館内外の端末で図書を検索し、その足で配架された場所におもむき、図書を直接手に取ることができるようになった。1冊の書籍を探し当て、手にするまでにかつては何十分もかかっていたことを思うと、これは画期的な出来事であった。

現在の上智の図書館は、開架式図書館である上に、書庫を囲んでリーディングスペースが十分に確保され、2階にはPCルームもあれば、地下1階には自主ゼミを開催できる個室や、ラーニングコモンズなどのグループ学習の場も用意されている。近年1階では、時限で「ブックフェア」(特定のテーマに沿った蔵書を解説つきで展示し、図書館利用者の関心を高める企画)も盛んに開催されるようになってきた。こうした様々な工夫は、図書館離れの傾向にある若者を、少しでも図書館に呼び込もうとする苦肉の策でもあるのだ。

本学の図書館にはもうひとつ、重要な特徴がある。館内に10の専門研究所(常設研究部門)が設置されており、その

多くが研究所独自の蔵書をもっている点である。OPAC検索をすると、配架場所に「〇〇研書庫」と出てくることがあるだろう。これは、個々の研究所の蔵書を意味する。かつては全研究所が研究所個別のスペース内に書架やリーディングスペースをもっていた。2005年以降の図書館内のレイアウト変更によって、研究所内に個別の書架を配置する空間を維持できる研究所は少なくなってしまったが、専門性に即した選書(当該分野に沿った新しい出版物を選択し、図書館の蔵書に加える作業)が継続されていることで、特定分野や地域に関連する蔵書は館内に集中配架されており、ユーザーにとってはありがたい。また、貴重本や紙以外の媒体で収集された情報は個々の研究所が管理している。海外から研究者がこのような図書館のリソースを活用したいとやってくることも多い。人文・社会科学系の研究所の多くが中央図書館内に設置され、図書館&研究総合棟となっているのはこのためである。また、8階と9階の大会議室は、研究所などが主催する公開講演会やセミナーなどの開催のために活用される。図書館は、蔵書・閲覧のためだけでなく、研究の場であり、発信の場でもある。専門性の高い図書館は、授業やゼミに還元される教員の研究蓄積の拠点であることはもとより、将来の研究者の卵である大学院生の研鑽の場でもあるし、海外からの研究者との交流の場でもあるのだ。

新入生が最初に訪れるのは地下1,2階の「学部図書」として配置された書籍が集中するフロアであろうが、徐々に自分の専攻分野を絞って、図書館の各階の特徴を探索し、足しげく通うお気に入りの場所を探し当ててほしい。そして、是非研究所や講演会にも気軽に足を運んで頂きたいと思う。

どんなに情報ネットワークが進んでも、人間の五感に訴える脳の動きは変わってはいない。手で紙に触れ、異なる字体を目で追うことで、思考能力は刺激される。頁を繰りながらじっくり読書する場を提供してくれるのが図書館である。図書館は学問にとっては宝の山を提供する研究の拠点であり、在校生にとっては最も贅沢な空間の一つである。授業で指定された1冊をOPACで検索し、それだけを借り出して満足するのではなく、是非その本の周辺に目をやってほしい。きっと思いもよらなかった豊かな世界がそこに広がっていることだろう。

# 教えて! Q&A ソフィアンくん

～ 第12回 図書を探す・読む・借りる・返す ～

今回は、新入生対象に図書を借りて、返却するまでを案内します!

## 1 サイネージ(電子掲示板)で フロアガイド、開館時間を確認しよう

入口から入って正面にサイネージ(電子掲示板)があるよ。フロアガイド、開館時間、各種イベントなどの情報が映し出されるんだ。図書館に来たら、必ず確認してね。



## 2 OPACを使おう

OPACは、図書館にある図書・雑誌を検索するツールのことだよ。  
(Online Public Access Catalogの略。)

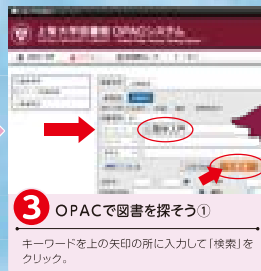


これが  
OPACだね

探す

## 3 OPACで図書を探そう①

キーワードを上の方の矢印の所に入力して「検索」をクリック。



## 9 図書を借りる(自動貸出機)②

図書をバーコードを上にして、所定の位置に置き、バーコードを読み取らせるんだ。  
1冊ずつ読み取らせてね。



## 8 図書を借りる(自動貸出機)①

貸出は自動貸出機で手続きしてね。学生証を銀色の磁気を上にして挿入して、画面にしたがって操作してね。



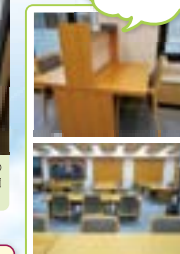
借りる



## 7 図書を読んでもみる②(閲覧席)

図書館内で  
利用した図書は、  
返却台に戻してね

図書館にはいろいろなタイプの  
界があるよ。1FとB2Fには、復  
引ブースを新設したよ。

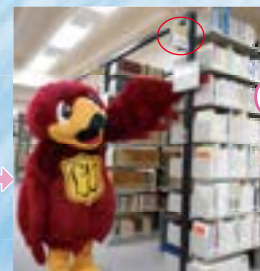


読む

他にこんな  
席もあるよ。

## 5 書架で図書を探す

「配架場所」に行ったら、書架の横のプレートで「請求記号」の数字に近い所に行つてね。  
図書の背表紙の下の方に「請求記号」が書かれたラベルが貼られているから、同じ請求記号を探そう。図書のタイトルも一致するよ。

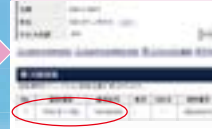


地下1階に、  
新書・文庫  
コーナーも  
あるよ。

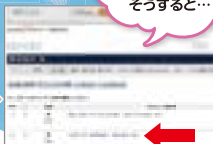


## 4 OPACで図書を探そう②

この画面が表示されるよ。  
「配架場所」と「請求記号」をメモして図  
書を探しに行こう。  
(「請求記号」は、図書が図書館内のどこ  
にあるかを示すんだ。)



ふむふむ。  
ヒットした図書の  
タイトルをクリック。  
そうすると...



心理学の本  
あるかな～



返す

## 10 返す①(貸出・返却カウンター)

館外貸出した図書の返却はカウンターへ。  
他の人の予約がはいっていないければ、1回だけ貸出  
期間の延長ができるよ。



## 11 返す②(ポスト)

図書館の外にあるので、図書館が開  
館している時でも返却できるよ。



図書の探し方についてもっと  
詳しく知りたいと思ったら  
「情報検索  
スタートブック」  
を見てね



これだよ!

中央図書館  
フロアマップ



1階



AVコーナーでは、映像資料、音楽・  
読学資料を見ることができるよ(図書  
館の図書のみ)。  
僕は優雅に映画鑑賞をしてきたよ。

レファレンスカウンター:  
資料の探し方やデータベースの利用  
方法など、困ったことがあったらレ  
ファレンスカウンターへ。  
僕も早速相談してみたよ。



# 図書館には便利な施設やサービスがたくさんあるよ!

## B1F ラーニングcommons



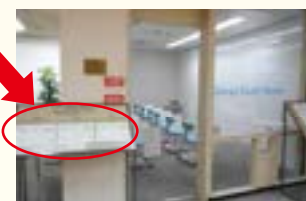
仲間と一緒に、プレゼンの準備をしてきたよ。  
ホワイトボードが自由に使えたり、ノートPCの貸出もできてとっても便利。

## B1F グループ学習室



10人程度で利用できるグループ学習室もグループワークをするのにとっても便利。

入口にある**申込表**で必ず予約をしてね。



## 2F コンピュータールーム



図書館2階のPCルームL1(72台)、L2(32台)は、いつも人がいっぱい。  
朝のうちに利用すると、比較的すいているよ!

## B1F 学生ラウンジ



勉強に疲れたら、学生ラウンジで、仲間と一息。ここは図書館で唯一おしゃべりができるし、自動販売機もあるから快適なんだ。



## 図書選定委員お薦めの本

総合人間科学部 心理学科 准教授 齋藤 慈子

## 『なぜヒトは学ぶのか：教育を生物学的に考える』

(安藤寿康著・講談社現代新書、2018)

学部地下1階：080:Ko196:v.2492



皆さんはなぜ今、大学で学んでいるのでしょうか？勉強を純粋に楽しんでいる方もいるかもしれませんが、勉強することの意義がよい成績、単位をとること以外に見いだせず、純粋には楽しめていない方もいるかもしれません。私自身は、学ぶことが楽しくて大学院まで進んでしまいましたので、学校や大学での勉強に大した疑問も抱かずにきました。しかし、自分の子どもを保育所から小学校に入れるにあたり、また前任校で保育士・教員養成にかかわったことから、盲目的に教育を受けることに疑問を感じるようになりました。

保育・幼児教育で大切なことは、子ども一人一人の多様性を認め、発達を援助すること、学びも遊びを通して行うものとされます。ところが、小学校になるといきなり40人ほどの子どもを一人の先生が指導し、皆で一斉に黒板に向かうという学びのスタイルが主になります。また、同じように勉強・努力すれば、みな同じように伸びるという信念(?)も垣間見えます。そういった就学前教育と就学後の教育のギャップ、昨今の教育に関する政治の動きを見るに、一斉教育を何の疑いもなくよいものとして受け入れることに違和感を抱くようになり、教育の在り方、意義について、ゼロから考える必要性を感じていました。

ヒトは生物であるという前提に立ち、現代文明といった枠組みのない中で、ヒトにとって「教育」とはどういうものなのか、まさに教育をゼロから考え、その答えを示してくれているのが、『なぜヒトは学ぶのか』です。著者も書いているように、これまでの教育学とは違った角度から「教育とは何か」について考察がなされています。この本ではまず、生物学的視点から学習とは何か、教育とは何か、ヒトは教育をする動物である、ということが説明されます。生物としてのヒトが共通して持つ、教育に関連する特性が明らかにされます。

続いて著者は、個人差に触れます。皆が微分方程式を自らの知識として理解し、人々の生活に役立てるほどに応用して使えるようになるのは無理だが、正直に無理だと言ってくれる教育学者はいないと指摘します。このような発言を堂々とできるのは、著者が行動遺伝学者だからでしょう。行動遺伝学は個人差に与える遺伝と環境の相対的な影響を明らかにする学問です。(第2部でわかりやすく説明がなされていますが、より詳しい方法論等を知りたい方は『「心は遺伝する」とどうして言えるのか：ふたご研究のロジックとその先へ / 安藤寿康著 創元社; 2017』も併せてご覧ください。)行動遺伝学の知見によれば、学業成績の個人差の約50%が遺伝で説明されるといいます。この事実を聞くと、成績の悪い人は勉強しても無駄、成績の良い人はやらなくていいのだと思うかもしれませんが、そうではなく、この本では学習は誰にでも必要であること、その人の遺伝的素質に沿った形で知識を蓄え理解することの重要性が説かれています。つまり、いろいろな行動的・心理的特性における個人差・多様性を前提としたうえで、個々人はそれに合った形で学んでいくのがよい、ということです。まさに就学前教育で重要視されていることです。しかし、教育現場では、未だに学業成績の個人差に遺伝的要因がかかわっているということは、タブー視されています。遺伝的個人差を無視し、環境と努力がすべてであるような学習観がはびこっていることは看過できない、と著者はいいます。また著者は、学校教育はよくできたシステムではあるが完全ではないことや、学校にこだわって生きるための学習を限定して考えてしまうことは、学習と教育の本質を見失うとも指摘しています。

私は非常に納得しながら読んだのですが、皆さんはどのように感じるでしょうか。教員を目指す人、他者を何かしら指導する立場に立つ可能性のある人(親になる人も)には是非一読いただきたいですが、ヒトが学ぶ意義についても書かれていますので、勉強する意義が見いだせなくなった時に、読んでみるのもよいかもしれません。

本文中で紹介されている『「心は遺伝する」とどうして言えるのか：ふたご研究のロジックとその先へ / 安藤寿康著 創元社; 2017』も図書館で所蔵しています。(学部地下1階：141.92:A473k)

叡智が世界をつなぐ

上智大学  
SOPHIA UNIVERSITY

上智大学図書館だより No. 29

発行所 上智大学図書館

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 TEL: 03-3238-3510 FAX: 03-3238-3139

発行日 2019年4月1日

印刷 三鈴印刷株式会社 TEL: 03-5276-0811